研究ノート

鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』における「涅槃」と「滅度」（1）

前　川　健　一

1　はじめに

梵語nirvāṇa（パーリ語nibbāna）は、仏教の基本的な修行目標であり、当然ながら仏典には頻出する。漢訳仏典においては、「滅度」などと意訳される一方、仏教特有の概念として、「泥曰」「泥洹」「涅槃」などの音写のままで使用される場合も少なくない。

意訳を用いるか、音写を使用するのかは、漢訳者が当該概念をどのように理解していたかを考える上で、一つの手がかりとなる。そこで、経典漢訳者として特に大きな影響を持った鳩摩羅什の訳経論および彼が関与した著作について、音写語「涅槃」と意訳語「滅度」および関連語の用例数を一覧化したものが、表1である。これはあくまで概算に過ぎない[1]が、全般的に鳩摩羅什は音写語「涅槃」を選好していることが分かる。しかし、『妙法蓮華経（以下、妙法華と略）』に限っては、「涅槃」と「滅度」の用例数が逆転していることが分かる。これがどのような要因によるものか、具体的に用例を検討して、考察してみたい。

1　たとえば、『妙法蓮華経』の集計には鳩摩羅什訳ではない「提婆達多品」の用例も計上されている（もっとも、「涅槃」1例、「般涅槃」1例のみ）。また、『注維摩詰経』・『大乗大義章』は、鳩摩羅什の執筆箇所以外の部分も含めた集計である。

2　全般的な傾向

『妙法華』を梵文テキストと比較してみると、全般的な傾向として、「涅槃」は名詞表現に対応し、「滅度」は動詞やその分詞形などに対応していることが分かる。しかし、そのような原則から外れる事例も少なくなく、それぞれについて要因を検討してみたい。なお、後の論述の都合で、『正法華経（以下、正法華と略）』の対応箇所も掲出した（該当箇所に下線を付し、加えて、梵文についてはイタリックにした。『正法華』の対応訳語が異なる場合は波線を付した[2]。KN はKern& Nanjio の梵本の頁数を示す）。

2. 1　「涅槃」と nirvāṇa の対応

・1　爲求聲聞者、説應四諦法、度生老病死究竟涅槃。（序品、T9. 3c22-23）

（正）爲聲聞乘講陳聖諦、則令衆庶度生老死憂惱衆患入近無爲。（T9. 65c22-24）

yad uta śrāvakāṇāṃ caturāryasatyasaṃprayuktaṃ pratītyasamutpādapravṛttaṃ dharmaṃ deśayati sma jātijarāvyādhi-maraṇaśokaparidevaduḥkhadaurmanasyopāyāsānāṃ samatikramāya *nirvāṇa*paryavasānaṃ. (KN17)

・2　諸法實相義　已爲汝等説　我今於中夜 當入於涅槃（序品、T9. 5a10-11）

（正）講説經典　自然之誼　顯示衆庶　此正法華

告諸比丘　吾已時到　當於夜半　而取滅度（T9. 67a27-b01）

prakāśitā me iya dharmanetrī ācakṣito dharmasvabhāva yādṛaśaḥ / *nirvāṇa*kālo mama adya bhikṣavo rātrīya yāmasmiha madhyamasmin // (1.79 KN25)

2　ただし、「涅槃」「泥曰」「泥洹」など、音写の違いについては無視し、同一語として扱った。

・3　世尊諸子等 聞佛入涅槃　各各懷悲惱 佛滅一何速（序品、T9. 5a14-15）

（正）常當供養　無量佛子　憂惱諸患　甚亦苦劇

時聞世尊　所現章句　觀於無爲　採習言教（T9. 67b4-6）

saṃtāpajātā bahubuddhaputrā duḥkhena cogreṇa samarpitābhavan / śrutvāna ghoṣaṃ dvipadottamasya *nirvāṇa*śabdaṃ atikṣipram etat //（1.81 KN26）

なお、用例３では、「仏滅」に相当する句は梵文にはなく、『妙法華』による補足である。

・4　我等亦得此法到於涅槃。（方便品、T9. 6b04-5）

（正）於是佛法無逮泥洹。（T9. 68c13-14）

vayam api buddhadharmāṇāṃ lābhino *nirvāṇa*prāptāḥ. (KN33)

・5　於諸無量佛　不行深妙道　衆苦所惱亂　爲是説涅槃（方便品、T9. 7c29-8a1）

（正）其有不樂　正覺明者　於無數佛　不造立行

愚癡生死　甚多苦患　故爲斯等　現説泥洹（T9. 70a23-25）

ye bhonti hīnābhiratā avidvasū acīrṇacaryā bahubuddhakoṭiṣu / saṃsāralagnāś ca suduḥkhitāś ca *nirvāṇa* teṣām upadarśayāmi //（2.46 KN45）

・6　是故舍利弗　我爲設方便　説諸盡苦道　示之以涅槃（方便品、T9. 8b22-23）

（正）佛了善權　卓然難及　爲説勤苦　斷其根原

衆生之類　諸見所惱　佛故導示　便至泥洹（T0263_.09.0070c21-23）

teṣām ahaṃ śārisutā upāyaṃ vadāmi duḥkhasya karotha antam / duḥkhena saṃpīḍita dṛṣṭva sattvān *nirvāṇa* tatrāpy upadarśayāmi //(2.67 KN48)

・7　是名轉法輪　便有涅槃音　及以阿羅漢　法僧差別名（方便品、T9. 10a6-7）

（正）大聖應時　便轉法輪　興發宣暢　滅度寂然

歎羅漢音　讃譽法聲　於是歌頌　聖衆之德（T9. 72c7-9）

tataḥ pravṛttaṃ mama dharmacakraṃ *nirvāṇa*śabdaś ca abhūṣi loke / arhantaśabdas tatha dharmaśabdaḥ saṃghasya śabdaś ca abhūṣi tatra // (2.126 KN56)

・8　從久遠劫來　讃示涅槃法　生死苦永盡　我常如是説（方便品、T9. 10a8-9）

（正）対応偈ナシ

bhāṣāmi varṣāṇi analpakāni nirvāṇabhūmiṃ cupadarśayāmi / saṃsāraduḥkhasya ca eṣa anto evaṃ vadāmi ahu nityakālam // (2.127 KN56)

・9　我法能離生老病死究竟涅槃。（方便品、T9. 12b05）

（正）斯諸比丘、頓止行門遵尚法律、度老病死諮嗟泥洹。（T9. 75a23-24）

etat paryavasāno me bhikṣavo dharmavinayo yad idaṃ jātijarāvyādhimaraṇaśokasamatikramo *nirvāṇa*samavasaraṇaḥ. (KN70-71)

・10　得涅槃證（信解品、T9. 16b18）

（正）常自惟忖謂獲滅度（T9. 80a20-21）

*nirvāṇa*saṃjñino (KN101)

・11　得至涅槃一日之價。既得此已、心大歡喜自以爲足。（信解品、T9. 17b22-23）

（正）志于滅度謂爲妙印、慇懃慕求初不休懈。欲得無爲意中默然。（T9. 81a1-2）

*nirvāṇa*mātraṃ ca vayaṃ bhagavan divasamudrām iva paryeṣamāṇā mārgāmaḥ. tena ca vayaṃ bhagavan *nirvāṇena* pratilabdhena tuṣṭā

bhavāmo (KN109)

この用例11の場合、梵文では2度にわたりnirvāṇaが出現するが、『妙法華』では最初の方のみを訳し、後者は訳していない。

・12　我等從佛得涅槃一日之價、以爲大得。（信解品、T9. 17b27-28）
（正）從如來所朝旦印印、當至無爲。（T9. 81a7-8）
etad evāsmākaṃ bahukaraṃ yad vayaṃ tathāgatasyāntikād divasamudrām iva *nirvāṇaṃ* pratilabhāmahe. (KN109)

・13　我等長夜　修習空法　得脱三界 苦惱之患
住最後身　有餘涅槃　佛所教化　得道不虚（信解品、T9. 18c2-5）
（正）得無爲限　當捨陰蓋　長夜精進　修理空誼
解脱三界　勤苦之惱　佛興教戒　則以具嚴（T9. 82c9-12）
*nirvāṇa*paryanti samucchraye 'smin paribhāvitā śūnyata dīrgharātram / parimukta traidhātukaduḥkhapīḍitāḥ kṛtaṃ ca asmābhi jinasya śāsanam // (4.45 KN117)

・14　如來知是一相一味之法。所謂、解脱相・離相・滅相、究竟涅槃、常寂滅相、終歸於空（薬草喩品、T9. 19c3-5）
（正）世尊如之見一味已、入解脱味、志于滅度、度諸未度、究竟滅度、令至一土一同法味、到無恐懼使得解脱（T9. 83c11-13）
so 'haṃ kāśyapaikarasadharmaṃ viditvā yad uta vimuktirasaṃ nirvṛtirasaṃ *nirvāṇa*paryavasānaṃ nityaparinirvṛtam ekabhūmikam ākāśagatikam adhimuktiṃ (KN124-125)

この用例14では、梵文において、nirvāṇaと関連の深いnirvṛtiやparinirvṛtaといった語があるが、『妙法華』ではそれぞれ「滅」「寂滅」と訳している。

これらについては、「滅度」の用例を検討する際に、再度取り上げる。

・15　知無漏法　能得涅槃　起六神通　及得三明（薬草喩品、T9. 20a23-24）
（正）以能識慧　無漏之法　便得無爲　所在遊行
神通三達　亦復如是　斯雨定意　三昧諸藥（T9. 84b29-c1）
anāsravaṃ dharma prajānamānā *nirvāṇa*prāptā viharanti ye narāḥ / ṣaḍabhijñatraividya bhavanti ye ca sā kṣudrikā oṣadhi saṃpravuttā // (5.29 KN129)

・16　世尊轉法輪　擊甘露法鼓　度苦惱衆生　開示涅槃道（化城喩品、T9. 24c26-27）
（正）思願講説　無上法輪　惟雷法鼓　尊妙法音
度脱衆生　勤苦之患　加哀示現　無爲大道（T9. 91b23-25）
pravartaya cakravaram anuttaraṃ parāhanasva amṛtasya dundubhim / pramocaya duḥkhaśataiś ca sattvān *nirvāṇa*mārgaṃ ca pradarśayasva // (7.58 KN178)

・17　爲是等故説於涅槃。是人若聞則便信受。（化城喩品、T9. 25c25-26）
（正）如來滅度時、若有聞説歡喜信者、佛恩所護。（T0263_09.0092b24-25）
tata eṣāṃ bhikṣavas tathāgatas tan *nirvāṇaṃ* bhāṣate yad adhimucyante. (KN187)

・18　以方便力而於中道爲止息故説二涅槃。（化城喩品、T9. 26a17-19）
（正）誘以聲聞縁覺易辦。化作城者謂羅漢泥洹。（T9. 92c22-23）
evam eva bhikṣavas tathāgato 'py arhan samyaksaṃbuddho mahopāyakauśalyenāntarā dve *nirvāṇa*bhūmī sattvānāṃ viśrāmaṇārthaṃ deśayati saṃprakāśayati. yad idaṃ śrāvakabhūmiṃ pratyekabuddhabhūmiṃ ca. (KN189)

・19　所得涅槃、非眞實也。（化城喩品、T9. 26a21）
（正）示現泥洹。（T9. 92c29）
yad yuṣmākaṃ *nirvāṇaṃ* naiva *nirvāṇam*. (KN189)

この用例19でも、梵文ではnirvāṇaは２箇所にあるが、『妙法華』では意訳して１つにまとめている。

・20　我等無智故　不覺亦不知　得少涅槃分　自足不求餘（五百弟子受記品、T9. 29b16-17）
（正）世尊我等　下劣心弊　不能覺了　如來教化
心無志願　不肯進前　而以泥洹　歡喜自慶（T9. 97c19-21）
vayaṃ ca bhagavann iha bālabuddhayo ajānakā sma sugatasya śāsane /
*nirvāṇa*mātreṇa vayaṃ hi tuṣṭā na uttarī prārthayi nāpi cintayī // (8.43 KN213)

・21　又復賜與涅槃之城。（安楽行品、T9. 39a5-6）
（正）対応箇所ナシ
*nirvāṇa*nagaraṃ caiṣāṃ mahādharmanagaraṃ dadāti (KN290)

・22　爲度衆生故　方便現涅槃　而實不滅度　常住此説法（如来寿量品、T9. 43b16-17）
（正）而爲示現　立于滅度　以教化誼　導利衆生
用權方便　而現滅度　故爲衆人　演斯法典（T9. 114c8-10）
*nirvāṇa*bhūmiṃ cupadarśayāmi vinayārtha sattvāna vadāmy upāyam / na cāpi nirvāmy ahu tasmi kāle ihaiva co dharmu prakāśayāmi // (15.3 KN323)

この用例22では、nirvāṇa に対応する動詞である nirvāmi が使われているが、こちらは「滅度」と訳されている（後述）。

・23　即爲方便説　涅槃眞實法　世皆不牢固 如水沫泡焰（随喜功徳品、T9. 47b4-5）

（正）其人最後　以法教喩　爲分別演　無爲之地

一切五道　猶如芭蕉　速令逮及　於滅度事（T9. 118c11-13）

so teṣa dharmaṃ vadatīha paścān *nirvāṇa*bhūmiṃ ca prakāśayeta / sarve bhavāḥ phenamarīcikalpā nirvidyathā sarvabhaveṣu kṣipram // (17.5 KN351)

・24　爲求聲聞者、説應四諦法、度生老病死、究竟涅槃。爲求辟支佛者、説應十二因縁法。（常不軽菩薩品、T9. 50c3-5）

（正）與聲聞乘、演四聖諦、度老病死、使近泥洹、解十二縁所由從起。（T9. 122c11-12）

yad idaṃ śrāvakāṇāṃ caturāryasatyasaṃprayuktaṃ dharmaṃ deśayati sma jātijarāvyādhimaraṇaśokaparidevaduḥkhadaurmanasyopāyāsa-samatikramāya *nirvāṇa*paryavasānaṃ pratītyasamutpādapravṛttim. (KN376)

以上が、「涅槃」と nirvāṇa とが直接的に対応する用例である。この他に、種々変則的な用例があるが、これらは次稿で検討したい（つづく。参考文献等は次稿でまとめて掲出する）。

表1　鳩摩羅什訳経論・著作における「涅槃」関連語句の用例数

	涅槃	般涅槃	滅度	滅度後	滅後
大莊嚴論經	61	2	1	1	0
衆經撰雜譬喩	6	3	0	0	0
摩訶般若波羅蜜經	121	25	19	4	0
小品般若波羅蜜經	21	2	16	2	5
金剛般若波羅蜜經	1	0	7	0	1
佛説仁王般若波羅蜜經	0	0	3	3	0
摩訶般若波羅蜜大明呪經	1	0	0	0	0
妙法蓮華經	64	5	94	30	39
十住經	27	1	1	0	0
佛説須摩提菩薩經	0	0	1	1	0
集一切福德三昧經	17	2	0	0	1
佛垂般涅槃略説教誡經	4	2	3	0	1
自在王菩薩經	9	1	3	0	2
佛説千佛因縁經	4	2	2	2	0
佛説彌勒下生成佛經	3	0	1	0	0
佛説彌勒大成佛經	8	1	2	1	0
文殊師利問菩提經	1	0	0	0	0
維摩詰所説經	16	0	5	0	6
持世經	14	0	3	2	8
思益梵天所問經	80	0	13	2	0
禪祕要法經	14	3	13	12	1
坐禪三昧經	57	0	0	0	0
禪法要解	18	0	1	0	0
思惟略要法	1	0	0	0	0
大樹緊那羅王所問經	27	1	0	0	0
佛説首楞嚴三昧經	44	3	6	2	5
諸法無行經	14	0	1	0	1
佛藏經	63	0	12	3	10
佛説華手經	49	3	21	11	7
燈指因縁經	3	0	0	0	0
十誦律	34	16	7	4	5
十誦比丘波羅提木叉戒本	1	0	0	0	0
梵網經	1	0	5	3	1

	涅槃	般涅槃	滅度	滅度後	滅後
清淨毘尼方廣經	6	0	0	0	0
大智度論	1035	48	74	27	7
十住毘婆沙論	109	1	10	1	6
中論	132	0	3	3	7
十二門論	18	0	0	0	0
百論	35	0	0	0	0
成實論	36	0	4	0	1
發菩提心經論	6	0	0	0	1
注維摩詰經	86	0	14	0	8
大乗大義章	34	0	6	1	1